

# わくわく探検

みんなの身の回りで、ユニバーサルデザインと呼ばれる製品を見たことはあるかな？ でも、一体どんなデザインなんだろう。こども記者が、この分野の専門家、大阪大学の川崎和男教授を研究室に訪ね、詳しく聞いてきました。

「ユニバーサルデザインという言葉はアメリカから持ってきたのは私」。川崎さんの一言に記者はききとんと。川崎さんは日本で初めてユニバーサルデザインを紹介し、国内で広めようと

## ユニバーサルデザイン

大阪大大学院  
川崎和男教授

## 日本に紹介

一九九六年から名古屋市立大で教え始めました。「デザインとはもともと、絵や形で印を付けること。思いやりを形にして、使いにくさなど身の回りの問題を解決することです」。でも、日本では川崎さんの説明とは違った意味で使われています。記者たちも耳にしたことがあるヘアデザインもその一例。「かっこいい形を作ることだけではありません」

# 思いやりを形に



①川崎和男教授からユニバーサルデザインの特徴について話を聞くこども記者＝大阪府吹田市の大阪大大学院で  
②子供でも使いやすいようデザインを考えた鉛筆削り



# 使う人を一番に考えて

「みんな、鉛筆削れる？」。川崎さんが、自分でデザインした鉛筆削りを取り出しました。小さな包丁に似ています。これにどんな思いやりがあるかとい

うと、小学生から中学生までを集めて子供が握りやすい形を調べました。右利きでも左利きでも使えます。

学校もあるそうです。自らデザインした製品はほかにも。緑と赤のカラーな車いすは、背もたれと座席が車輪から取り外せ、それぞれ畳めます。チャタンの重さは広く出回っている製品の半分くらい。キッチンタイマーには時間を示す小さな丸い突起物が付いていました。目が不自由な人も触って分かりま

す。「最初は点字を付けられたいと考えたけれど、点字を読める人は少ないと知り、印に変更しました」。製品を作るときは、思い付いたアイデアが独り善がりにならないよう改良を繰り返します。使う人に思いやりが通じるかどうか、いろんな場面を想像するそう。「デザインは問題を思いやりで解決する正義の味方。デザインと言ったら、全部ユニバーサルデザインでなくちゃね」。記者は大きくうなずきました。

## こども記者

- 岡田 直人（名古屋市蓬来小6年） 一番大切なことは、相手を思いやり、相手の立場になって、より簡単に使いやすいデザインを考えることです。
- 栗原 美紗（名東小6年） えんぴつ削りはツツデザイン賞の一つ。たくさんの人を調査したから、たくさんの方の工夫や努力があると思います。
- 林 ゆいな（愛知県小牧市小牧小6年） 牛乳やペットボトルのまん中のくぼみも、持ちやすいようにつくられたユニバーサルデザインだと知りました。
- 山口 功祐（日進市梨の木小6年） 弱い人をきじゆんにしつつ強い人のことも考えるのは、とてもむずかしい。でも、大切で必要不可欠だと感じました。
- 城ノ口皓高（三重県鈴鹿市郡山小5年） 色も大切だと知りました。大阪の小学校では夏休みに、ユニバーサルデザインのお菓子を作る宿題があるそうです。
- 原 有萌（岐阜県大垣市東小5年） ユニバーサルデザインの七原則は、公平性、自由度、単純性、情報処理性、安全性、省体力性、空間確保性です。

こどもタイムズ

# Kazuo Kawasaki Ph.D.